第二部

人参養栄湯と加味帰脾湯の 口訣を考える

木村(容) 第二部では、日常診療で使用頻度の高い人参養 栄湯と加味帰脾湯について、各診療科でどのように使用さ れているかを討論し、現代の口訣を導き出したいと思います。

1. 人参養栄湯の口訣を考える

木村(容) 人参養栄湯の原典は『太平恵民和剤局方』で(図1)、 十全大補湯の構成生薬から川芎を除き、陳皮・遠志・五味 子を加えた処方です。原典には「慢性の疲労で体力が低下 して、体全体が衰弱、悲哀や憂鬱な感じを覚えて惨めで寂 しい気がする状態」、また「肺と大腸が虚し、咳嗽、下痢、 喘鳴、呼吸困難、嘔吐、喀痰があるものを治す」と記載さ れています。

遠志の薬理学的な作用は、中枢作用、抗ストレス作用、 抗浮腫作用、利尿作用、気道分泌促進作用などが報告され ており、臨床では、強壮作用、鎮静作用、去痰作用のほか 健忘などに有効であると報告されています。五味子は、薬 理学的な作用として中枢作用、利尿作用、抗ストレス作 用、抗疲労作用、鎮痛作用、鎮咳作用などが報告されてお り、臨床では、鎮咳作用、止汗作用、補腎作用などを期待 して使用されることが多いと思います。

では、各領域における人参養栄湯の使用経験、臨床応用から現代の口訣を導き出したいと思います。

● 倦怠感、息切れなどに人参養栄湯が有効であった一例

大谷 倦怠感、息切れなどに人参養栄湯が有効であった症 例を紹介します。

症例は70歳代の男性、主訴は倦怠感と息切れです。既往 歴は30歳代より掌蹠膿疱症、70歳代で前立腺がん手術、 慢性胃炎があります。X年8月に胸部異常陰影にて、左肺 下葉の腺がんと診断されました。低肺機能のため手術が困 難と診断され、定位放射線照射が施行されて、腫瘍は縮小しましたが、放射線照射後に倦怠感、便秘、食欲低下、気力低下があり、X年11月下旬に当院紹介となりました。診察所見は図2に示すとおりです。

肺と脾が虚していることを示す症状に加え、不眠の訴え もあるため、人参養栄湯エキス剤で治療を開始しました。 「身体がぽっぽして心地よい、調子がよい」、「(服用)3日 目から便秘がよくなった、ガスもよく出て気持ちがよい」、

図1 人参養栄湯の原典

● 十全大補湯-川芎+(陳皮 遠志 五味子)

原典『太平恵民和剤局方』

慢性の疲労で体力が低下して、手足が重だるい、体がうずくように痛む、呼吸が浅い、行動すると喘(あえ)いで息切れする、下腹がひきつり痛む、腰から背が強ばり痛む、心が弱くなって少しのことにも驚き胸騒ぎがする、喉や唇が乾燥する、飲食物の味が感じられない、体全体が衰弱、悲哀や憂鬱な感じを覚えて惨めで寂しい気がする、寝てばかりいる、長いものでは数年、早いものでは100日ほどで痩せ細る、内臓の働きが落ちて回復できないという者を治す。また肺と大腸が虚し、咳嗽、下痢、喘鳴、呼吸困難、嘔吐、喀痰があるものを治す。

図2 症例 診察所見

- 身長: 166cm 体重: 66.1kg
- 血圧: 151/87mmHg 脈拍: 88/分
- 胸腹部特記すべき所見なし。
- 脈診:沈、弱
- 舌診: 淡暗紅、舌根部に黄白色の苔。舌下静脈の拡張軽度あり。
- 腹診: 腹力3/5 心下痞鞕あり。右胸脇苦満 軽度あり。 小腹不仁なし。
- 問診:疲れやすい。カゼをひきやすい。

食欲がない。食後に胃もたれ。食後に眠くなる。 腹部膨満、ごろごろしやすい。便は兎糞状。下痢もしやすい。 残尿感、排尿時痛、尿漏れあり。夜間尿4~5回。 変な夢ばかり見る。

目がかすむ。目が疲れる。目が乾く。

咳、痰がよく出る。息切れがする。動悸がする。

胸がつまった感じがする。些細なことを気にする。

寒がりで暑がり。手足が冷える。足底はほてる。寝汗をかく。

のぼせがある。喉が渇きやすい。 髪が抜けやすい。腰痛。

漢方エキス製剤の上手な使い方-困ったときの この一手-



「よく眠れるようになった」ということでした。1ヵ月後には息切れが軽減し、倦怠感が改善しました。さらに2ヵ月後には、掌蹠膿疱症の皮疹が改善しました。

木村(容) この症例は人参養栄湯を服用できましたが、第一部 の佐藤先生にご提示いただいた症例 (p.8参照) では服用できま せんでした。佐藤先生の症例では脾虚の程度はどうでしたか。 佐藤 もともと胃が弱い方でしたので、地黄が配合された 人参養栄湯は合わなかったのだと思います。

大谷 この症例では人参養栄湯を服用できないほどの著しい脾虚はないと考えました。もし人参養栄湯が服用できない場合には、先に六君子湯などで脾虚を改善してから人参養栄湯を投与するという方法もあると思います。

木村(容) 治療の順番が大切ということですね。掌蹠膿疱症の皮疹まで改善したことには驚きました。

大谷 皮膚も肺が支配していますから、人参養栄湯で脾・肺 の虚をともに補うことで皮膚の症状も良くなったと思います。

●補剤の使い方 人参養栄湯の症例報告

二宮 慢性貧血の高齢女性で、自覚症状に倦怠感のある方に投与し奏効した症例をご紹介します。

症例は79歳の女性、主訴は頻尿、倦怠感です。既往歴に先天性胆道拡張症・膵胆管合流異常があり、70歳時に肝切除・胆管空腸吻合術を施行しました。現在も胆管拡張チューブを挿入中です。75歳時に施行されたペースメーカー挿入手術時に膀胱拡張を指摘され紹介受診されました。神経因性膀胱の診断で79歳まで内服治療を行いましたが、残尿が300mL以上となってきたため、79歳から自己導尿を開始しました。半年後(X年6月下旬)に全身倦怠感とBUN上昇を認めたため、暑気あたりとして清暑益気湯を開始しました。所見を図3に、経過を図4に示します。Hb値も徐々に低下を認めていました。X年7月にはさらに

腎機能が悪化し、清暑益気湯を柴苓湯に変更しました。含糖酸化鉄注射薬(鉄剤)と赤血球造血刺激因子製剤(ESA)などによる貧血への治療を行ったにもかかわらず著効せず、

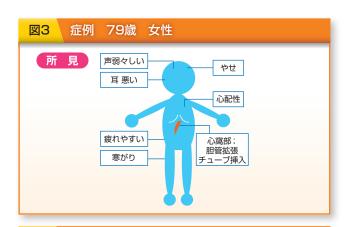
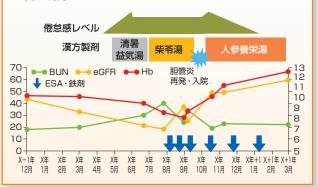


図4 臨床経過

- 半年前と比較し、Hb 10.3g/dLは9.6g/dLに低下。Cr 0.95mg/dL は1.83mg/dLに上昇したため清暑益気湯を柴苓湯に変更。
- X年8月、倦怠感は不変。採血でさらに貧血の進行と腎機能の悪化を認めた。尿路管理は持続留置バルーンに変更。鉄剤とESAを開始した。血中エリスロポエチン値は21.7mIU/mLと正常範囲(4.2~23.7mIU/mL)だが、腎機能悪化に伴う貧血の進行と判断した。
- X年10月に胆管炎の再発があり、他院にて1週間の入院加療。Hb 10.2g/dLと改善はあるものの、倦怠感が継続しているため人参養 栄湯を開始。
- X年11月に腎機能・貧血の改善あり、持続留置バルーンを中止。自己 導尿を再開。





倦怠感のレベルはほぼ一定のままでしたが、胆管炎の再発でX年10月に入院加療となりました。鉄剤の服用は継続していましたが、退院後も倦怠感が不変だっため、人参養栄湯を開始したところ、倦怠感の改善を自覚しています。その後、人参養栄湯の服用は継続しました。鉄剤・ESAを減量しても貧血は悪化せず、冬も比較的元気に過ごすことができたと患者さんは喜んでいます。

本症例の経験から「貧血治療(鉄剤・ESA)のお供に人参養栄湯」という位置づけは良いかもしれないと思いました。 木村(容) 皮膚や呼吸器の所見はいかがでしたか。

二宮 腹部の皮膚はカサカサして非常に乾いていました。腹部 に胆管拡張チューブが挿入されているため、呼吸はしづらそうで、せき込みなども十分にはできないのではないかと思いました。

● 鉄欠乏性貧血に人参養栄湯

木村(康) 非常に虚弱で貧血のある小児に使用した経験 をご紹介します。

症例は1歳6ヵ月の男児、主訴は体重増加不良、易感冒罹患です。在胎37週の正期産でしたが、出生体重は1,964gでNICUにて入院管理されていました。既往歴・家族歴・身体所見・検査所見は図5に示します。

X年12月19日、鉄欠乏性貧血に対し、溶性ピロリン酸第二鉄の処方を開始しましたが、急性中耳炎の治療のための抗菌薬の投与と同時であったためか下痢が頻回となりました。中耳炎は軽快しなかったため抗菌薬の継続は必須ですが、下痢があると保育園で預かってもらえないため、同22日に人参養栄湯の投与を開始しました。

人参養栄湯の開始後1週間(X年12月29日)で溶性ピロリン酸第二鉄を中止しましたが、約3週間後(X+1年1月19日)の血液検査では貧血所見の軽快傾向を認めました。

この症例の他にも、鉄欠乏性貧血の患者さん(1~6歳 児)8例に人参養栄湯を処方しましたが、血液検査結果の 改善だけでなく、中耳炎が治りやすくなった、体重が増加 してきたなどの手ごたえを感じています。

鉄欠乏性貧血と診断されましたが、便秘・下痢・胃痛などの副作用があるため鉄剤を服用できない小児に、人参養

栄湯が有用な可能性があると考えました。一方で鉄剤を服用できる場合でも、長期間の過剰な服用はヘモジデローシスの合併を起こす恐れがあるため、小児科領域では2~3ヵ月ごとに血液検査を行なわなければなりませんが、人参養栄湯により貧血症状が軽快すれば検査回数も減らすことができることから、治療選択肢の一つとして有用だと思われます。

この他にも、冷えと鉄欠乏性貧血、易感染傾向のある幼児および成人に人参養栄湯を投与したところ、貧血症状の改善や冷えの改善が認められた症例を経験しました。味のために人参養栄湯を服用できなかった症例はありませんでした。既往歴や家族歴に鉄欠乏性貧血があり冷えを訴える場合には、人参養栄湯が有効な可能性があると考えます。木村(容) 鉄欠乏性貧血の方は婦人科領域でも多いと思いますが、高宮城先生の臨床経験はいかがですか。

高宮城 過多月経による重度の貧血で、Hb値が5~6g/dL まで低下している方も多くいらっしゃいます。子宮筋腫な どの器質的疾患がない場合は鉄剤と当帰芍薬散を併用し、 月経量を減らすコントロール等をします。人参養栄湯を思 春期の摂食障害の患者さん数例に処方したことがありま

図5 症例 1歳6ヵ月 男児 貧血症状が軽快した幼児

既往歴

乳児期より鼻汁、鼻閉あり。急性肺炎、反復性中耳炎。

家族歷

母: 鉄欠乏性貧血。

経 過

O歳9ヵ月より保育園に入り、頻回に感冒罹患。 近医加療も軽快せず、1歳より当院を受診。

1歳6ヵ月検診時: 体重8,100g 身長73.2cm Kaup指数15.1。 たくさん食べるが体重は増えない。

身体所見

● 活力良好、色白。 ● 腹診: 腹力軟 手足の冷えあり。

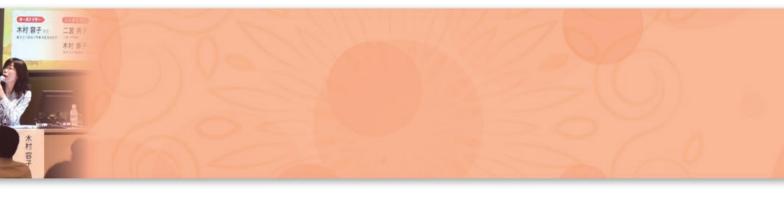
検査所見 X年12月8日

Hb 10.6g/dL Ht 33.4 % MCV 68fL MCHC 31.7g/dL Fe 109 μ g/dL τ 7 × 10 μ g/mL.

経過

 X+1年1月19日の血液検査で、Hb 12.3g/dL Ht 38.6% MCV 71fL MCHC 31.6g/dL Fe 73µg/dL フェリチン11µg/mLと軽快傾向を認めた。

漢方エキス製剤の上手な使い方-困ったときの この一手-



すが、証が合わなかったため服用していただけなかったり 効果がみられなかったという経験があります。

木村(容) 胃腸の状態によって地黄が飲めるかどうかということですね。木村康子先生、人参養栄湯の小児の臨床的な印象をまとめてください。

木村(康) 虚証で鉄欠乏性貧血および易感染性傾向がある場合、小児科では建中湯類を処方することが多いのですが、小建中湯や黄耆建中湯で効果がなかった患者さんに人参養栄湯を投与したところ改善傾向がみられたことから、人参養栄湯は虚証の方の選択肢となると思います。鉄欠乏性貧血は乳児期(10ヵ月頃から)の方に多いため、1歳前後が対象になります。

木村(容) 磯村先生、皮膚科領域における人参養栄湯の臨 床経験をお聞かせください。

磯村 人参養栄湯を重症の凍瘡に使用して有効だった症例があります。また、全身性強皮症やシェーグレン症候群の凍瘡様皮疹に人参養栄湯が有効だったという報告もあります。自験例では、橋本病の60歳男性と45歳女性で、ともに酷くなると潰瘍化する症例がありました。当帰四逆加呉茱萸生姜湯は無効だったのですが、人参養栄湯を使用したところ、発症はしても潰瘍化はせず、重症化しませんでした。木村(容) 凍瘡の治療では、当帰四逆加呉茱萸生姜湯や十全大補湯との鑑別も必要になりますが、どのように使い分けられていますか。

機村 当帰四逆加呉茱萸生姜湯は「内に久寒」とされ、人参養栄湯はさらに気血の虚が強い症例に用います。十全大補湯との鑑別は難しいですが、津田玄仙の口訣によれば、人参養栄湯は「津液の枯渇」が、十全大補湯は「気血の虚寒」が目標とされています。私の症例では、甲状腺機能低下がある方は津液の枯渇がより強いというベースがあったのではないかと思います。

木村(容) 各科領域でどのように人参養栄湯を使いこなしているかを討論いただきましたが、人参養栄湯は十全大補湯を基本とした処方ですから、「気血両虚の状態があり、さらに脾肺の虚で体液の枯渇、皮膚の乾燥を伴うものに使用できる」ということを現代の口訣としたいと思います(図6)。



2. 加味帰脾湯の口訣を考える

木村(容) 加味帰脾湯は、『厳氏済生方』に「思慮過制、心脾を労傷し、健忘 怔忡するを治す」と記されている帰脾湯に柴胡・山梔子を加えた処方です。『内科摘要』では「過度に思いめぐらせて胃腸を損ない」、その結果、物忘れや胸騒ぎ、下痢をするなどの症状があるものに帰脾湯を用い、加味帰脾湯は帰脾湯に柴胡、山梔子を加えたものであると記載されています。

では、各領域における加味帰脾湯の使用経験、臨床応用 から現代の口訣を導き出したいと思います。

●加味帰脾湯が有効であった精神疾患合併更年期女性 髙宮城 症例は52歳の女性、主訴は月経不順、ほてり、腹 部膨満感、便秘です。既往歴・現病歴と所見は図7(次頁 参照)のとおりですが、あまり特徴がなかったため、八味地 黄丸と当帰芍薬散を14日分処方しました。

経過を図8(次頁参照)に示します。再来時に便秘の訴えがあったため加味逍遙散と防風通聖散に変更し、便秘は改善しました。めまいの訴えのため当帰芍薬散に変更しましたが、「疲労感が強く眠れない」、「イライラして家族に当たる」に対し、加味帰脾湯を追加しました。その後3年半は、症状に合わせて処方を変更したものの、加味帰脾湯を



図7 症例 52歳

主訴

月経不順・ほてり・腹部膨満感・便秘

既往歷

40歳~ 肝疾患(詳細不明)。ウルソデオキシコール酸を服用中とのことだが肝機能は正常、高脂血症にて内服治療中。

42歳~ 精神科通院中 診断名不明。クエチアピンフマル酸塩、ロラゼバム、ブロマゼバム、フルニトラゼバムなど多剤服用中。

所 見 (初診:X年1月 46歳)

- 身長:158cm 体重:57.4kg BMI:23.0
- 血圧:109/60mmHg P:77 Hb:9.7g/dL
- MCV: 85.5
- 顔色不良。
- 婦人科的に子宮卵巣異常なし
- 腹診:右臍傍圧痛軽度 腹力3/5↓
- 舌診:淡紅色 歯圧痕なし 舌下静脈怒張なし





中止するとイライラ・肩こり・頭痛などの訴えが増え、「加味帰脾湯+防風通聖散」の組み合わせが最も訴えが少なくなる傾向となりました。X+4年よりホルモン補充療法(HRT)を開始しましたが自己中断されたため、元の処方(加味帰脾湯+防風通聖散)に戻りましたが、急激な体重減少時に十全大補湯を追加していました。X+5年に胆のう摘出術を受けた後から下痢傾向が強くなったため、現在は当帰芍薬散と加味帰脾湯で経過観察中です。

加味帰脾湯は、補気補血の帰脾湯に柴胡・山梔子を加味 して、理気・清熱で虚熱を取り除き、イライラ・のぼせ・ 怒りに対応していると考えられます。 本症例は、向精神薬などを多剤内服しており、6年間の経過中に易疲労感とイライラを主に訴えています。種々の漢方薬を試しましたが、最も落ち着くのは加味帰脾湯でした。本症例はいつも顔色不良で倦怠感があり、イライラの訴えが多いので、最終的にはこの処方で合っていると考えており、漢方薬が患者さんのQOL向上の一助になっていると思われます。

●月経前後の愁訴に加味帰脾湯が有効であった症例

佐藤 症例は46歳の女性、主訴は四肢の熱感、月経周期の倦怠感、イライラです。以前より月経困難症によるイライラ、倦怠感、全身のむくみがあり、月経前に当帰芍薬散と五苓散を服用していました。40歳を過ぎたころから暑さに弱くなり、当帰芍薬散の服用に伴う手足の熱感を不快に感じるようになりました。以前は月経終了とともに症状は消失していましたが、最近は月経後も不調が続き日常生活にも支障をきたしていました。身体所見は、小柄で色白、目の下にくま、肌・毛髪の軽度乾燥があり、舌診は色調淡でやや腫大、舌苔は微でした。

臨床経過を図9に示します。当初は気血両虚にプレ更年期の相対的陰虚が重なったものと考え温清飲を処方しましたが無効でした。冬には熱感が弱まったため、イライラに対して抑肝散加陳皮半夏を、翌年の夏には熱感に白虎加人参湯を処方しましたが効果はありませんでした。さらに翌年の春に改めて症状をうかがうと、抑うつや不眠といった心血虚の症状が存在していたため加味帰脾湯を処方したところ、症状は速やかに軽減しました。2ヵ月後には倦怠感が改善し、3ヵ月後の夏には熱感の改善もみられました。現在は加味帰脾湯のみ継続服用しています。

加味帰脾湯の生薬構成を**図10**に示します。気血両虚、特に心血虚を伴う症例の熱感や月経周期の諸症状に加味帰脾湯は有効でした。

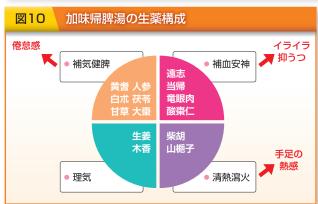
木村(容) 本症例では、温清飲や白虎加人参湯が無効で加味帰脾湯で軽快しました。

佐藤 『牛山方考』(香月牛山)では、帰脾湯は「心脾の血が虚する者は、陰虚火動して、発熱し頭や額に皮膚病(瘡)を

漢方エキス製剤の上手な使い方-困ったときの この一手-







生じ、女性では月経不順、男性では小便が出渋るときには、(帰脾湯に)山梔子と柴胡を加えて奇効がある。これを加味帰脾湯と名づける。牡丹皮を加えると殊に効果がある」と説明されています。この症例も血虚をベースとして虚熱が出てきたため加味帰脾湯が著効したと思います。

木村(容) 婦人科的な愁訴は泌尿器科でもよくみられると 思います。二宮先生の加味帰脾湯の使用経験をお聞かせく ださい。

一宮 加味帰脾湯は、神経症状が主に出て、さらに身体的症状を訴えられる方に使用しています。更年期では温清飲を思い浮かべますが、温清飲は身体的症状が主に出て、神経症状が付随して現れる方に使用します。また、年齢による使い分けも考慮しています。25~40歳くらいの方には温清飲よりも加味逍遙散を使用することが多く、また「加味逍遙散が効かなくなった」という方に対しては、加味帰脾湯に変方すると「こちらの方が合うので続けたい」とい

うことがあります。このような方は50歳前後に変方する と非常に効果があるように思います。

木村(容) 40歳過ぎからは変方も考慮することが大切ですね。

●嘔気、不安の症状に加味帰脾湯が有効であった一例

大谷 症例は49歳の女性、主訴は嘔気です。子宮筋腫は経過観察中で、胃がんの既往があります。X-2年に他院での腹腔鏡下幽門側胃切除術が施行されましたが、術後に嘔気が続き、下痢と便秘を繰り返すようになりました。胃がんの再発や子どもの将来などに対する不安が強く、精神科に通院するも嘔気が強いため西洋薬を服用できませんでした。嘔気の悪化、食欲不振を認め、不安になると下痢が悪化するため漢方治療を希望され、X年2月に受診となりました。診察所見は図11に示します。

診察所見と問診からも、脾虚・気血両虚・心血虚があると考え、加味帰脾湯エキス剤を開始しました。3~4日後から嘔気が軽減し食事ができるようになり、足の重だるさが改善してきました。2週間後には嘔気がさらに軽減し、外出する元気も出てきました。徐々に不安が改善し、嘔気・下痢も改善しました。

木村(容) 嘔気や下痢の消化器症状に対し、六君子湯や半夏瀉心湯ではなく加味帰脾湯を使われたのはなぜですか。 大谷 嘔気や下痢などの脾虚の症状だけでなく、がん再発への心配や子どもの将来への不安などが強く、夜になかなか眠れないという心血虚の症状が強くあったことや、不安になると悪化する下痢は、肝の疏泄が低下すると脾の症状も悪化する

図11 診察所見

- 身長: 159cm 体重: 46kg
- 血圧: 117/68mmHg 脈拍: 89/分
- 胸部に特記すべき所見なし。腹部に腹腔鏡の手術痕あり。
- 脈診:沈細弱。
- 舌診:淡紅、一部紫色。乾燥している。舌下静脈の拡張あり。苔が厚くなるため毎日磨いている。
- 腹診:腹力3/5 心下痞鞕を認める。腹直筋の緊張なし。小腹不仁あり。
- 問診:疲れやすい、体がだるいなどの他、胃もたれやげっぷ、食欲がない、胃のあたりがつかえた感じがする、下痢や便秘を繰り返す、不安になると下痢が増悪する、よく眠れない、寝つきが悪い、目が疲れて乾く、些細なことを気にする、不安が強い、不安になると動悸を自覚、手足が冷える。



ためと考え、柴胡の含まれる加味帰脾湯を選択しました。 木村(容) 加味帰脾湯は耳管開放症にも使われるという 報告があります。

木村(康) 耳管開放症については図12に示します。耳管開放症に対する加味帰脾湯の効果は過去にいくつかの文献において報告されていますが、証を問わず加味帰脾湯を処方しても75%に奏効したとされています。一方で、発症からの経過時間が長い症例は効果が現れにくいといった報告もあります。加味帰脾湯を使用した4例中2例に効果を認めましたが、やはり発症から投与までの期間が短い症例が奏効した印象です。また半夏厚朴湯や抑肝散加陳皮半夏などで耳管開放症の自覚症状が軽減し効果があった経験もあります。

木村(容) 耳閉感は半夏厚朴湯が良い場合もありますね。 発症から治療開始までの期間の目安を教えてください。

木村(康) 文献的には3ヵ月までに治療をした方が良いとされていましたが、自験例では1ヵ月以内が望ましいと考えました。

図12 耳管開放症とは

症状

通常は閉じているはずの耳管が開いたままの状態になってしまうこと によって起きる様々な症状。

耳閉感、自声強聴、自分の呼吸音が聞こえる。 めまいや軽度の難聴を訴えることもある。

原因

急激な体重減少。多発性硬化症、パーキンソン病、放射線照射。 疲労・睡眠不足。ストレス。妊娠。経口避妊薬など性ホルモンの連用。

治療

原因の除去。漢方薬。手術療法。

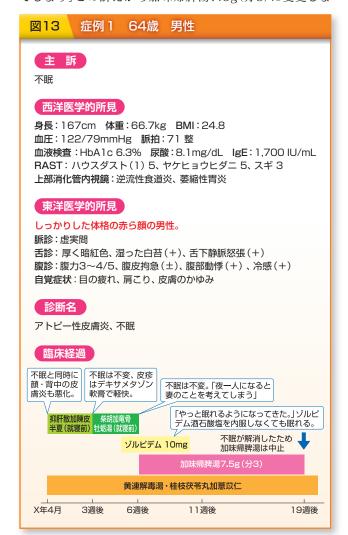
●加味帰脾湯とグリーフケア

磯村 グリーフケアに加味帰脾湯を用いた2症例を提示します。

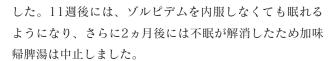
症例1は64歳の男性、主訴は不眠です。急性肝炎(29歳)、 大腸がん手術(59歳)の既往があります。X-2年よりアト ピー性皮膚炎のため当院を受診、黄連解毒湯7.5g+桂枝 茯苓丸加薏苡仁7.5gを内服していました。X年4月、妻が 大動脈解離のため突然死去し、それ以降に不眠をきたすよ うになりました。

西洋医学的所見・東洋医学的所見を図13に示します。 不眠と同時に顔と背中の皮膚炎も悪化し、従来の内服(黄連解毒湯+桂枝茯苓丸加薏苡仁)に加え抑肝散加陳皮半夏を就寝前に投与しました。

3週後、柴胡加竜骨牡蛎湯に変更しましたが、6週後も不眠は不変でした。ゾルピデム酒石酸塩(以下、ゾルピデム)10mgを追加しましたが、「どうしても妻のことを考えてしまう」との訴えから加味帰脾湯7.5g(分3)に変更しま



漢方エキス製剤の上手な使い方-困ったときの この一手-



症例2は45歳の女性、主訴はペットロスです。既往歴・現病歴・所見は $\mathbf{214}$ に示します。

X年9月、腹満感とガスの増悪のため、従来から服用している抑肝散加陳皮半夏、桂枝加芍薬湯に加え、半夏厚朴湯を投与しましたが、10月に泥状便とガスが増加し、手足のだるさと動悸が出現したため加味帰脾湯に変更しました。11月、加味帰脾湯を服用するようになって何となく気持ちがやわらぎ、便回数は2~3回/日に減少し動悸も軽快しました。12月には気持ちが少し上向きになるものの、1月は生理時の気分の落ち込みが強いために桂枝茯苓丸を投与したところ、その後軽快しました。加味帰脾湯の内服は継続しています。

原典である『内科摘要』の帰脾湯の条文に「思慮、脾を傷り」とあることから、症例1は、生来実証の男性でも精神的・肉体的に虚した状態にあると想像し、加味帰脾湯を投

図14 症例2 45歳 女性

主訴

既往歷

ペットロス

O歳 腸重積

現病歴

- X-10年 就職活動後のストレスをきっかけに潰瘍性大腸炎を発症。
- X-4年 潰瘍性大腸炎と過敏性腸症候群、PMSのため当院を受診。
- X-3年 インフリキシマブ (遺伝子組み換え) 製剤を投与され、潰瘍 性大腸炎は改善した。
- X年5月 愛犬の介護をきっかけに下痢、全身倦怠感、憂鬱感が増悪。
- X年9月 家族同様の存在であった愛犬(ミニチュアシュナウザー雄) が死亡。

西洋医学的所見

- 身長:163cm 体重:42kg BMI:15.8
- 血圧: 104/60mmHg 脈拍: 92 整
- 血液検査: Alb 3.9g/dL CRP: 0.02mg/dL

東洋医学的所見

- やせ形で色白、生真面目な印象の女性
- 脈診:沈細舌診:薄く淡白色湿潤した微白苔(+)
- 腹診: 腹力2/5、両側胸脇苦満(+)、中脘の圧痛(+)、ガス(+)
- 自覚症状: 泥状便2~4回/日、腹満感、腹部ガスが多い、手足の冷え・ だるさ、生理前生理中の頭痛・下腹痛、不安感・無気力・ 憂鬱感、倦怠感

与し有効でした。

症例2は虚証の独身女性ですが、多彩な愁訴に対し加味 帰脾湯を服用することで「なんとなく心がやわらぐ」とい うことから継続服用しています。

愛するものとの別離を経験し、「思慮、脾を傷り」という 状態で身体上にさまざまな不調のあらわれる人に寄り添い援助することをグリーフケアといいますが、加味帰脾湯 がグリーフケアに役立つ可能性が考えられます。

木村(容) 加味帰脾湯は気血両虚に加え、"心"脾の虚、虚熱の状態に有効ではないかということでした。各症例は不眠の症状が出ていましたが、心は不眠などの精神症状にも有効です。浅井貞庵は『方彙口訣』の中で、「人の目の醒るは気の力又睡りて寐るは血の主り」としており、目覚めるには気、眠るには血の関与があることから、睡眠には気と血が大切であるとわかります(図15)。



まとめ

木村(容) 今回は、第一部「困ったときの この一手」、そして 第二部「人参養栄湯と加味帰脾湯の口訣を考える」をテーマ に、臨床的な観点から各方剤の口訣を検討いたしました。 すべてのご発言が明日からの実臨床に役立つものと思います。 本日は、ありがとうございました。